



第52号

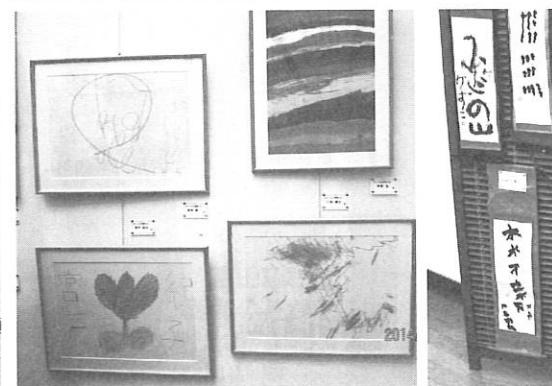
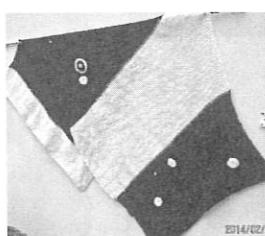
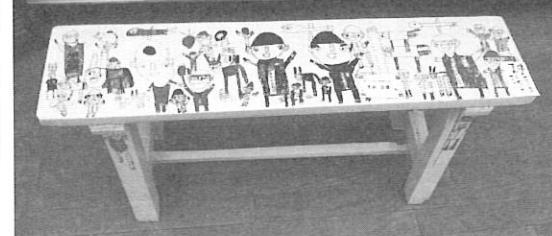
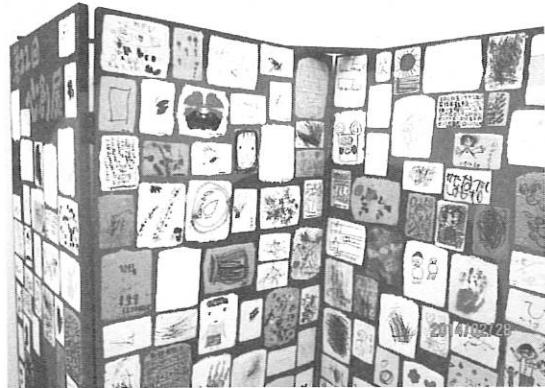
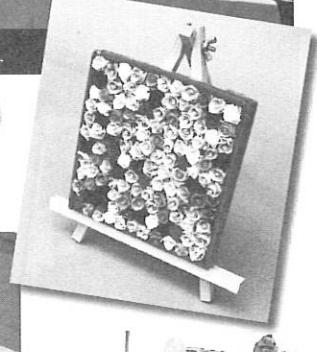
発行/社会福祉法人 素心会  
責任者/事務局長 高瀬 尚人  
〒259-0103

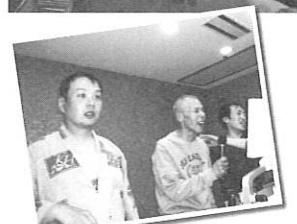
神奈川県中郡大磯町虫窪39番地1  
TEL. 0463-71-1255  
レイアウト・印刷 貴峰荘ワークピア



## 平成25年度 心創展

平成26年2月26日(水)～3月2日(日)  
半塚市美術館





素心学院 支援一課 望月信史

今年度も素心学院年中行事の一泊旅行に行きました。全5コース（その内1コースは荒天とインフルエンザの為、残念ながら実施できませんでした。）の内容を簡単に紹介させていただきます。

まず7月に伊豆長岡温泉に出かけました。毎年恒例ですがやっぱり良い旅館です。皆さんのがんばり温泉と宴会を楽しんでいました。

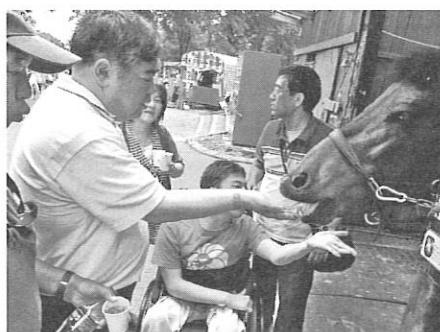
9月は山梨石和温泉に行き、山梨名産のブドウ狩りを体験し短い時間でしたが夢中で食べきました。

10月は鬼怒川温泉へ行つてきました。一日目に池袋サンシャイン水族館に寄り一日目に12月で閉館してしまう日光猿軍団に行きました。お猿さんたちも少し歳をとつてしまつていましたが、利用者さんが楽しそうに笑っていましたので最後に行けて良かったと思っています。

11月は海ほたるを経由して千葉鴨川温泉へ。房総半島の海の幸を堪能し、ちょっとしたお笑いショーを楽しんできました。

学院の利用者さんにとって一年のメインイベントのひとつです。職員にとつても学院では見ることができない素敵な表情が見られる貴重な機会でもあります。来年も一人ひとりの要望に少しでも応えるよう思いのこもった企画を作つていきたく思っています。

素心学院



素心デイセンター



デイセンターでは、朝霧高原まかいの牧場、大井川鉄道、東京ディズニーランド、東京スカイツリーと例年通り一泊旅行を四回実施しました。動物と触れ合ふことや、SL車内に入ってきた黒煙にも負けずに駅弁を食べたこと、夜のディズニーランドやスカイツリーの展望台に上った経験などが、これらの生活で思い返せる出来事の一つとして、記憶に刻まれてくれると嬉しく思います。昨年末からは、「来年の旅行はどこ行くの？温泉がいいな。」と、何人もの利用者から声を掛けられることが増えてきました。一泊旅行が再開されてから四年経ち、旅行を楽しみにされている様子が見られてきました。これからも利用者の生活の糧になりうるような旅行を企画実現していくかと思います。

素心デイセンター 榎山政明

## 家族ペンリレー

### 「家族の絆」

金子文江さん

大澤英子さん(妹)



正月のこと、少しづつ言葉を話せるようになってきた私の初孫である菜波(女子の子・1歳10か月)も「ミーちゃん」と声をかけ、一緒に絵本を見たり学院のクリスマス会でプレゼントしていただいた「キティちゃんのお家の玩具」で遊んだりしている姿を見ると本当にほほ笑ましくもあり、家族の絆を強く感じました。



両親が他界した後は、文江の妹である私の家族が文江の帰宅ごとに一緒に過ごしています。私の母親が一番心配していたのは、文江の生活のことでした。しかし素心学院では、素晴らしい職員の方々に恵まれ、多くの院生に囲まれながら日々充実した生活を送らせていただいております。保護者会のときなどに皆様に声をかけていただいたときには、言葉は話せなくとも全身で喜びを伝えようとし

毎年8月、素心会全ての事業所(素心学院・素心デイセンター・地域支援センターそしん)が集結した一大ビッグイベント「納涼祭」を今年も開催します。

### 納涼祭 につれマ

●日時 8月2日(土) 17:15~19:40

●場所 素心デイセンターグラウンド

内容は、二宮町長によるハワイアンバンド演奏、ちびっこ太鼓盆踊り、各種模擬店(全て無料)、自主製品販売、花火など…夏のひとときを一緒に楽しみませんか? みなさんのお越しを心よりお待ちしています。

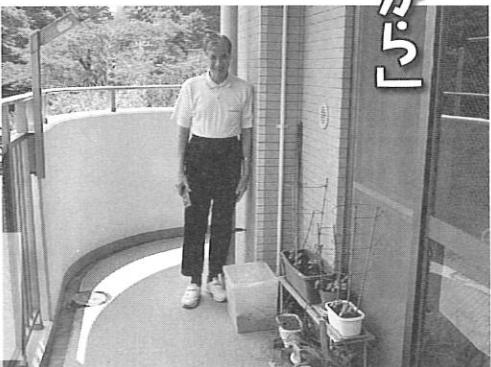
素心学院の利用者の中には、昔からベランダで花や野菜などを育てている方がいますが、今回はお二人ご紹介したいと思います。聖雪寮の堀ハナコさんと玉翠寮の飯田功さんです。お二人とも学院が移転する前の十数年も昔から趣味としてベランダで様々な花や野菜などを栽培していました。きっかけは昔から興味があったことと、周りの利用者や職員に影響されて始めたとのことでした。今ではこうした取り組みを個人でおこなっている方は少なくなってしまいましたが、うまく育った野菜や花を他の利用者の方や職員に分けてくださることもあり、お互いにさやかな楽しみになっているようです。

今回取材をしてみて、生活の場には住んでいる人それぞれの顔が表れるのだと感じました。お二人のベランダには、長く生活している人にとっては当たり前のように鉢植えやプランターの緑や花がありますが、こうしてみてみると自然と周囲の人も空間も和ませてくれるような…。そんな雰囲気を感じました。

聖雪寮 堀ハナコさん  
今はキュウリを育てています



玉翠寮 飯田功さん  
大輪の朝顔の花が待ち遠しいです



## 「初夏のベランダから」

### 「家族の絆」

金子文江さん

大澤英子さん(妹)

姉(文江)も高齢となり健康面(病気やケガなど)が一番心配なことです。しかし何があつても家族や姉妹で協力し合って支援していきたいと思っています。そして将来、本人が安心して両親の眠っているところに行けるようにすることができ私たちの役目ではないかと考えています。



## 「職員インタビュー」

地域支援センターそしん 佐藤 秀祐

今回のインタビューでは地域支援センターそしんの佐藤秀祐さんを紹介したいと思います。

平成21年に素心会に入職後、児童の発達支援と放課後等デイサービスを担当してきました。現在も中

心的な役割を担いながら、大磯町・二宮町にお住まいの方のサービス等利用計画の作成と障害支援区分調査および相談支援業務全般に携わっています。

**Q1.** 「素心会に入職してから児童の支援に携わってきた経験が長いと思うのですが、その際に一番大事にしていきたいと思っていることは何ですか。」

**A1.** 「実際には大変難しいのですが、子ども達一人一人の思いや気持ちをくみ取れるようにすることを意識しています。何気ない行動や場面の中に眠っている可能性を見出して、これから先の将来が少しでも豊かなものになるように頑って支援に取り組んでいます。」

**Q2.** 「成人の方の施設での支援の経験もあると聞いたのですが、児童の分野に身を投じようと思ったきっかけは何ですか。」

**A2.** 「児童の分野で仕事をしたいという思いは学生の頃からずっと抱いていましたが、その機会を得られず、成人の方の入所施設で福祉のキャリアをスタートさせることとなりました。日々の支援に取り組み、経験を重ねていく中でもその思いはずつと消えることはなかったのですが、私にとって理想的なタイミングで素心会の門を叩くきっかけがあり、今に至っています。」

**Q3.** 「普段接しているお子さん達にどのように成長してもらいたいと願っていますか。」

**A3.** 「たくさんの人と触れ合い、たくさんの楽しみを見つけ、何よりたくさん笑って欲しい。そう願つ

て日々子ども達に接しています。」

**Q4.** 「昨年からサービス等利用計画の作成をはじめ、相談業務に携わっていると聞きましたが、実際に取り組んでみてどのように感じていますか。」

**A4.** 「地域にお住まいの障害をお持ちの当事者の方、あるいはそのご家族の方にお会いして思いに耳を傾ける中で、それぞれのお立場とご事情があるのだと感じました。何にご不安を感じて、どんな生活を望んでいるのかなど考えるべきことが多く、相談の業務の重要性を実感しています。サービス等利用計画はご本人の思いはもちろんのこと、ご家族の思いも代弁するものだと感じています。不安や悩んでいることが少しでも解消され、希望する生活に近づけるように力を尽していきたいと思います。」

多忙な業務の合間に時間を割いて今回インタビューを実施ましたが、児童の支援にかけてきた熱い思いを感じることができました。地域支援センターそしんでは多くの事業を展開しています。その中で経験を活かしながら、新たな責任を担うために挑戦していく姿が印象的でした。

今後も、職員の紹介にご期待ください。

子ども達の  
創作活動の支援を  
しています



●会費は個人一口、年 1,000円から  
法人・団体一口、年 10,000円から  
●会員には、新聞「そしん」をお送りします。  
●行事のご案内などをします。

### 会費の納入先

#### ■銀行振込は

中南信用金庫国府支店 014-0139723

郵便振替はどこの郵便局でも 00270-0-19507 です。

#### ■口座名は

社会福祉法人素心会後援会 会長 鈴野七郎

※新しく会員になっていただける方は、

ご住所を電話等でお知らせくださいようお願いします。

#### ■事務局

〒259-0103 神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1

素心会後援会 TEL.0463-71-1255  
FAX.0463-73-0009

### 素心会事業所アドレス

素心学院	TEL. 0463 (71) 1255 FAX. 0463 (73) 0009
素心デイセンター	TEL. 0463 (71) 1256 FAX. 0463 (71) 1284
地域支援センターそしん	TEL. 0463 (70) 3577 FAX. 0463 (72) 2577
さざんかホーム	TEL. 0463 (61) 1519 FAX. 0463 (61) 1519
がもめホーム	TEL. 0463 (61) 5404 FAX. 0463 (61) 5404
つばきホーム	TEL. 0463 (71) 0990 FAX. 0463 (71) 0990
シーヘルホーム	TEL. 0463 (61) 5281 FAX. 0463 (61) 5281

3年生の息子が夕食の支度をしている私の元へいつものように「ご馳走様」と空のお弁当箱を持ってきました。私もいつものように折られた紙切れがあり、中には「今までありがとうございました」と言。そうです。今日は高校生活最後のお弁当だったのです。思ひがけないメッセージに涙が溢れました。思い返せば中学から十日の部活を含めほぼ毎日作り続け、育ち盛りの大きなお弁当箱の隙間をどう埋めようか毎日悩んだものでした。今日が最後のお弁当とともに気付かず普段と変わらぬ物を作ったこと

寂しさがこみ上げてきました。便箋でもない、ノートの切れ端に書かれた言葉。私の宝物の一つになりました。